

令和2年度(2020年度)自己評価書

学校名	北海道登別明日中等教育学校
-----	---------------

1 本年度の重点目標

- (1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細やかな学習指導の充実
- (2) 生徒の多様化に対応し、健康・安全教育や教育相談活動の充実
- (3) 地域や保護者との連携を重視した教育活動の充実
- (4) 国際理解教育、外国語教育などを通し、実践的なコミュニケーション能力や語学力の育成
- (5) 6年間を見通した計画的な進路指導の充実
- (6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視

2 自己評価結果及び改善方策

A= 3.3以上 B= 3.0以上 C= 2.9以下 D= 2.5以下

評価項目・指導等		達成状況	取組の適切さ	今後の改善方策
項目	小項目			
学習指導	生徒の学習意欲を喚起させるような方策を立て実践している。	B	B	○教員間の日常的な授業互見を促進し、コロナ禍にも対応できる双方向的視点での授業改善に向けた取組の推進を図る。 ○コロナ禍でも可能な異年齢活動を模索していく。 ○探究活動を縦軸として、各教科等の単元を横軸に、重なる部分について補完できるようカリキュラムマネジメントを推進する。 ○次年度最終年度となる「地域との協働学習」の内容の充実を図る。
	国際理解教育や外国語教育などを通し、実践的なコミュニケーション能力や語学力の育成を行っている。	A	B	
	異年齢集団による教育活動の充実に努めている。	B	B	
	授業評価の内容および実施は、教職員の資質等を向上させ授業改善につながっている。	B	B	
生徒指導	発達段階や集団の構成に応じた望ましい生徒集団の育成に努める活動が展開している。	B	A	○生徒会執行部、生徒会常任委員会を活用し、生徒自らで「望ましい明日像」を議論させる。 ○JRやバス等の乗車マナー、自転車の乗り方に関するマナーの周知徹底を図っていく。 ○「いじめ」やSNSの問題について、生徒会執行部、HR委員会を活用し、防止策について議論をしていく。
	基本的な生活習慣を確立させるための指導を行っている。	A	B	
	生徒の自治的な活動を充実させる取組を適切に実施している。	A	A	
	いじめや学校不適応生徒への取組や、予防的な取組が適切に実施されている。	B	B	
進路指導	早期に自己理解を促し、生徒が主体的に進路選択できるように、計画的で系統的な進路指導を行っている。	A	A	○進路実現に主体的に取り組む生徒の育成に向け、進路探究活動やポートフォリオを活用したキャリア教育の再構築を図る。 ○大学進学希望者を含む全ての生徒の進路希望に対応できる指導体制の構築と、諸調査の分析による指導の充実を図る。 ○進路情報の提供の可視化と効率化を図っていく。
	十分な進路情報の提供を行い、学校・生徒・保護者が一体となった指導を進めている。	A	A	
	進路相談体制を整備し、進路相談の充実を図っている。	B	A	
	セミナーやスタディサブリ、模擬試験等を計画的に実施し、生徒の学習を支援している。	A	A	
保健・安全	日常の健康観察や疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組を行っている。	A	A	○今年度は、教育相談期間を設けた。事前に全校生徒にアンケートを取り、相談したい教員と相談できる場を設けたが、今後も継続していく。 ○情報モラル教室や、薬物乱用防止教室は外部講師に依頼する。
	生命を尊重し、思いやりの心を育む指導を推進している。	A	A	
	教育相談体制が整備され、計画的かつ状況に応じた活動を行っている。	B	A	
対外・総務	各種行事等におけるPTAとの連絡調整が図られ、適切な運営に努めている。	B	B	○次年度はHPのトップ画面のメニューの整理を行い、さらに見やすい・使いやすいHP作りを心がけていく。 ○次年度もPDCAサイクルを重視し、積極的に学校の改善をサポートしていく。 ○デジタル化を積極的に図り、情報発信等の効率を図っていく。
	学校評価を軸としたPDCAサイクルによる改善が推進されている。	B	B	
	本校の教育活動を広く伝えるため、広報活動等の改善を行っている。	B	B	
寄宿舎	生活習慣を確立し、異年齢交流を活かした寄宿舎生同士の良好な人間関係の構築に努めている。	B	A	○現在行われているリーダー会議を活用し、生徒の自主性を育むとともに、生徒の意思を尊重したサポート体制を構築する。 ○的確な目標設定や、その達成状況を評価する活動を通して、自己の成長を実感させるとともに、自己肯定感を持たせるよう努める。
	主体的に生活改善する姿勢の育成のため、各回生のリーダーやエリアリーダーを中心とした組織運営を行っている。	A	A	
	HR担任や宿直担当、保護者、スクールカウンセラー等と連携して生徒の健康と安全を確保できている。	B	B	
運営全般	道内唯一の道立中等教育学校として、ここしかできない教育を探究できている。	B	A	○探究的学び、国際交流教育、異年齢教育、地域連携、先取り学習、6年間一体の進路指導などをさらに充実させる。 ○管理職のリーダーシップのもと、業務縮減と勤務割り振りの工夫など、勤務縮減に努める。
	研究指定での成果を教育活動に応用している。	B	A	
	定時退勤日や部活動休養日の設定など、勤務時間縮減に向けた取組を行っている。	C	B	

A: 十分である B: おおむね十分である C: やや不十分である D: 改善を要する